

九州の女性プロフェッショナル'17

能力を発揮できる体制づくり

中小企業を中心に人手不足が喫緊の課題となっている。女性や外国人の一層の登用が注目される中、政府は女性活躍推進法を定め、女性が社会で能力を遺憾なく発揮できる体制づくりを進める。だが、日本は女性が活躍できる社会の

構築に向けて途上であり、仕事と家庭の両立など解決すべき課題は多い。本座談会では上場企業から中小企業まで九州で働く女性4人に集まってもらい、会社の人材教育や福利厚生などを聞いた。

専門性ある仕事 — そのやりがい

理系の研究経験生きる 松尾氏

積算は会社の根幹業務 鋤柄氏

— 自己紹介をお願いします。

松尾 勤続16年目で、開閉器の基礎研究をしています。開閉器は電気を安定供給するために必要で私たちの生活に欠かせないものです。プライベートでは子ども2人の母親として忙しい毎日を送っています。



松尾 美和氏

大賊 40〜50歳の枠で人材募集をしていて、事務職から製造業への挑戦を決めました。鋤柄の現場は暑く、力仕事で体力も必要なため男性が多いです。

多く活躍する職場です。社長が「女性は将来の力になる」と女性登用に積極的だったことも縁だと思っています。

鋤柄 就職活動で建設業は女性採用に積極的ではない現実を知りました。弊社も本来は土木科で募集していましたが、建築科、しかも女性の私を快く受け入れてもらいました。面接前の職場見学では、社内の清掃がきれいに引き届いていることが印象深く残っています。

竹内 私も松尾さんと共通して理系が好きで将来は研究に携わりたいと思っていました。そのため大学も環境理学科に進学。新卒時は研究職とは異なる世界に飛び込みましたが、紹介もあって学んだ知識を生かしたいと今の会社に入社しました。

られており、間接的に私たちの生活に関係しているという点に感じて実感します。子どもに自分の仕事を紹介できます。

大賊 作業した鋤型がやがて製品となり、お客様の元に届く。モノづくりに携わっている実感があり、やりがいにつながっています。複雑な形状で作業が難しい製品もありますが、まだまだ一人前とは言えませんが、成長する過程も面白いのです。

鋤柄 積算は1円でも間違えたら受注できないこともあります。

り、会社の根幹に関わる重要な業務です。変動する燃料費の単価なども間違わないように計算します。責任重大ですが売りに上げて大きくつながっていると感じます。

竹内 大分県の湯布院に旅行した際に、スーパーで私が分析した飲料水が証明書付で販売されていました。分析の仕事は環境保全全般に関わることが出来ます。名指しで相談してくれる取引先もいます。

座談会出席者

- 戸上電機製作所 技術本部開発管理グループ主任 **松尾 美和氏**
- 東亜工機 横田製造部 鋤造課 **大賊 美枝子氏**
- 日本建設技術 企画情報推進本部 積算室 積算課 **鋤柄 可奈子氏**
- 太平環境科学センター 事業部分析課 課長補佐 **竹内 美恵氏**
- 日刊工業新聞社 西部支社長 **嶋崎 直**

一から学び資格も取得 大賊氏

自動化進め働き方改革 竹内氏

鋤柄 入社3年目です。家の設計に興味を持ち唐津工業高校の建築科に進学しました。現在の仕事は官公庁が発注する工事の費用を算出する積算が担当です。工事現場を見学して施工時間や何人体制で作業しているかなどを勉強しています。

竹内 入社13年目で飲料水の品質検査など環境保全に関する仕事をしています。内勤だけでなく打ち合わせのためお客様の元に出かけたりします。課長補佐の役職で、後進の指導育成なども行っています。

— 皆さん異なる分野で業務に従事されています。現在の会社を志望した理由は。

松尾 私は小さいころから理科が好きでした。大学は理系に進み、光触媒の研究を卒業研究に選びました。就職活動と同じころ、弊社が水処理事業を立ち上げました。研究テーマと合致していたので学んだことを生かせることを志望しました。

— 鋤柄工場など特殊な仕事であればある程、教育体制にも特徴がありそうですね。

大賊 私はペンチすら手にしたことがなかったので、全一から現場担当の方に教えていただきました。資格取得や技能検定受検を推奨する社風があり、私も技能検定1級に合格しました。自分の仕事は自分で完結したいので、玉掛けはもうろくクレーン操作の資格も取りました。



大賊 美枝子氏

松尾 私の入社時は1カ月を社内研修、その後配属先で私はオンザジョブトレーニング(OJT)を経験しました。今は2カ月間、主に座学での社内研修をした後に工場で製造とか。

松尾 全社でグローバル化を推進しており、語学力強化の研修やTOEICの定期受験もあります。4月からフィリピンへの短期留学制度も始まりました。留学対象者は会社の方針もありますが、自ら留学を希望することもできます。

鋤柄 私はOJTを基本に新入社員研修では電話対応など一通り経験しました。積算業務は今でもパソコンですが、最初は電卓を使って教えてもらいました。工事現場の見学は実際の現場が見られるので理解が深まりました。

— 20歳の若さで会社の根幹を担う積算に登用するのは、会社の英断ですね。

鋤柄 疑問点があれば気軽に質問できる恵まれた環境です。私が孫や子どもの年代にあたるからでしょうか、みなさん心配して、優しく教えてくれます。手が空いたときは、基準書や工事別の概要などの参考書を読んで学んでいます。

竹内 入社時は寿退社される先輩がマンツーマンで教えてくれました。また内勤メインの技術者であってもコミュニケーション力を身につけるため外部から講師を招いた社内研修にも積極的です。資格取得を目的とした社内勉強会では、有資格者が講師役を担ったりと人材育成に重点を置いています。

— 御社では働き方改革の観点から進める現場の取り組みがあるそうですね。

竹内 機械による自動化を進めています。働き続けたいけど長時間労働を嫌がって結婚を機に退職される先輩も多かったです。労働人口が減る中で長く仕事を続けられる環境を整える必要があります。自動化によって定時退社する人数も増えました。社長が「自動化できるものは提案してほしい。世の中になんか作ろう」と先導してくださいます。特に女性が仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを共に働く私たちが自発的に推進していくことが重要だと思います。

現場力を高めて日々成長

女性の働き方支援に必要なこと

女性更衣室などを新設 大賊氏

女性取締役が親身に配慮 鋤柄氏

「女性活躍を推進するためには、働き方支援や福利厚生」の拡充が欠かせません。

大賊 育児休暇や半日有給などがあります。大きく変わったのは私が入社して女性更衣室やシャワー室が新設されました。以前まで女性用トイレは工場内にありませんでした。今の工場は女性が私一人だったので、トイレの設置希望を遠慮していましたが、社長に相談してみると要望を快く取り入れてくれました。

鋤柄 トイレや更衣室、育児休暇など一通りそろっている

「不満はないですね。女性の現場見学用に作業着が支給されています。夏冬1着ずつの支給でしたが、洗濯などを考慮して支給数を増やしていただいています。退社時間が遅くなった時のために駐車場所を



鋤柄 可奈子氏

変更いただくなど各方面で親身になってくださいます。竹内 自動化を進めることで時間に余裕が生まれ、PTAもありません。学校行事は可能な限り参加したいです。そのおかげで1年に1度の「記念日休暇」ができました。これは誕生日や結婚記念日などに合わせて平日に5日間お休みをいただけています。土日を休めるのが連休となり家族サービスや旅行など各自フレキシブルです。自動化による働き方改革の恩恵だと思っています。

大賊 細かい気配りなどは強みかもしれません。作業も細かさや丁寧さが反映されている気がします。

松尾 育児休暇や時短勤務制度などがあります。育児休暇取得後の復帰率は100%で、私も子どもが2人いるので1年間ずつ2回取得しました。子育てするにあたり、急務でない残業や出張を可能な限り減らすように配慮いただいています。職場全体でカバーしあうことが大切ですが、代替が効かない作業者は大変だと思っています。

鋤柄 積算担当の女性登用は初めてですが、私自身は向いていると思います。建築科で学んだ建築の初歩知識も意外と使えます。

松尾 メリットだけでなくデメリットもありました。当初、女性技術者はまだまだ特異な存在でした。与えられた仕事はやりやすくない。女性であることが表立って浮

目立つことがあつてしかるべきだと思います。女性活躍の推進はもちろん大切ですが、女性だからこそ生きる仕事を考えることで長く仕事を続けられる環境を整えます。

鋤柄 私は工業高校出身で男の子に囲まれて育ったので、今の環境に抵抗はありません。国土交通省では建設業界の女性活躍を応援してくれているので、将来は女性の絶対数が増えればいいです。

夢は大きく……

技術職としての前例に 松尾氏

女性初の社長目指したい 竹内氏

「今後の目標と今後社会に出る女性に向けた助言があれば教えてください。」

松尾 キャリア形成を考え

たとき時短勤務を使いたくても前例がないという壁にあつたことがあります。福利厚生をうまく活用していくことが重要です。

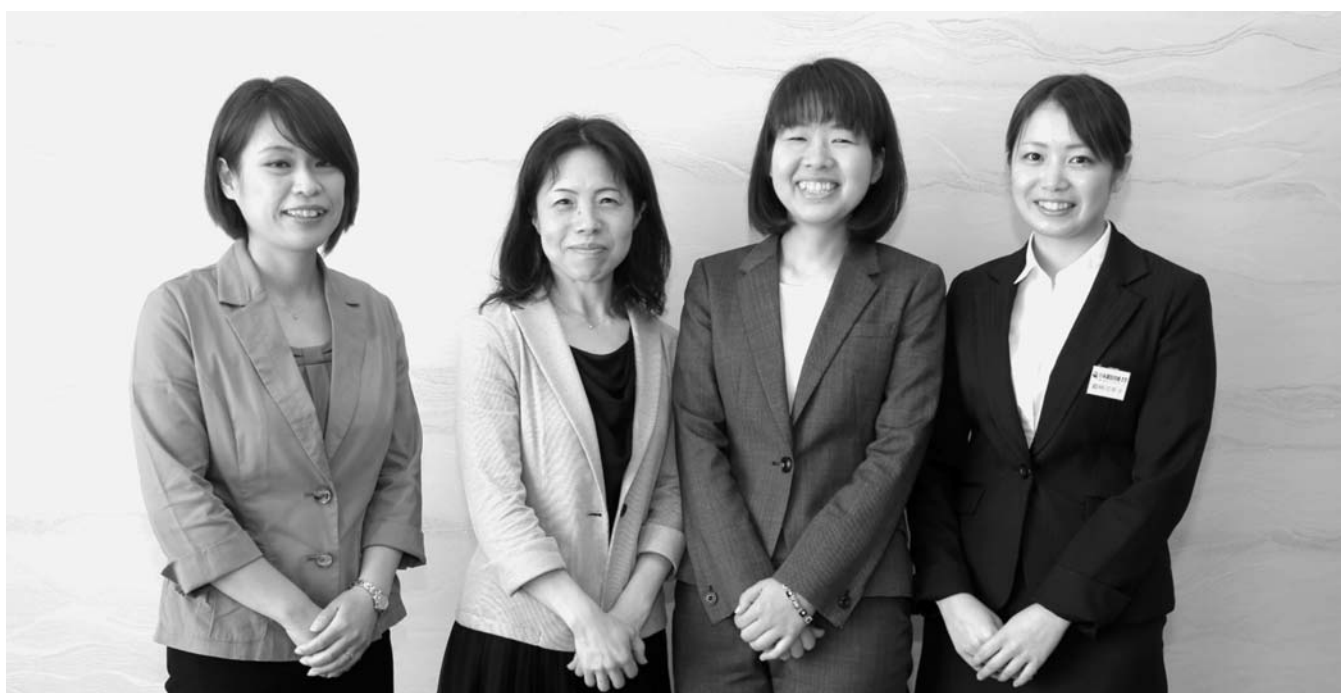
大賊 女性だからといって先入観を持ってほしくないです。これは製造に関係なくどんな仕事にも当てはまります。若い子が活躍できる職場をつくるためにも、現役の私たちが努力していかないと、女性活躍の取り組みを加速することにつながると感じています。みなさんの今後の活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

鋤柄 女性でも受け入れて



竹内 美恵氏

「国がようやく女性活躍推進法に本腰を入れ始めました。お話を伺っていると、現実はずっと先に進んでいます。事例を発信することが、女性活躍の取り組みを加速することにつながると感じています。みなさんの今後の活躍を期待しています。本日はありがとうございました。」



男女差を考えつつ適材適所で

後輩のためにもキャリアアップ